

令和4年度 京都府立須知高等学校 学校経営計画（スクールマネージメントプラン）（実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>【目指す教育】</p> <p>◆日本三大農業教育発祥の地「京都府農牧学校(蒲生野農学校、京都府農学校)」以来の歴史と伝統の継承</p> <p>◆「自主」「規律」「誠実」を校訓とし、心身ともに健康で、自主の精神に富み、根気よく学ぶ力と豊かな情操を身に付けた有為な社会の形成者を育成</p> <p>【目指す学校】</p> <p>◆地域と共に歩み、信頼され、地域を核として社会を支える人材を育成する学校</p> <p>◆土から食卓までを結ぶ新たな専門教育を拓く学校</p> <p>【目指す生徒】</p> <p>◆夢と希望を持ち、自ら学び自らを高め、未来を切り拓く生徒</p> <p>◆豊かな感性、人権意識、道徳心を身に付け、社会を担う責任を自覚し、自然、人、社会とつながる生徒</p> <p>◆自らの目標を実現するため、失敗を恐れずに挑戦し、強しなやかな意志と健康でたくましく生きる生徒</p>	<p>【成果】</p> <p>◆生徒の可能性を伸ばす個別最適な学びと地域とつながる協働的な学びを推進するとともに、府教委指定「京都フロンティア校」を軸とするきめ細かな学習指導、生徒指導、進路指導により、個々の生徒に応じた学力向上、希望進路実現を図れた。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症感染防止対策として、基本的な感染防止対策の徹底と感染状況に関する情報発信や啓発活動の実施。また、体調不良者や欠席者を正確に把握した早期の対応が感染拡大防止につながった。</p> <p>◆新たな学習指導要領の趣旨に対応した教育課程の編成や観点別学習状況の評価や評定の方向性を定めることができた。</p> <p>◆オンライン学習システム「スタディサプリ」を活用し、学習到達度テストの結果を踏まえた個別の課題配信を学年と連携して進めることができた。また、動画視聴をはじめ、宿題配信、定期考査後の振り返りやアンケート調査、など新たなスタイルの教育活動を推進するとともに保護者との連絡手段として学年通信等を配信することができた。</p> <p>◆令和3年度京都フロンティア校として、地域を支える人材育成を理念に、地域貢献や地域との連携を積極的に推進する本校の特色あるキャリア教育活動が、キャリア教育優良校として文部科学大臣より表彰された。</p> <p>◆「地域創生推進校」として、普通科では京丹波学や京都府農牧学校の研究を通して地域活性化策を考案するとともに、食品科学科では、地元食材を活かした加工品開発やウィードの森に関する研究など、地域資源を活用した取組を実施し、マイプロジェクトアワードなどの発表会へ参加することで、本校の取組を広く発信することができた。</p> <p>◆部活動では、体育系、文化系ともに全国大会へ出場し、入賞するなどめざましい活躍を果たすとともに、農業クラブ活動においても、全国大会や府連大会で入賞するなど、部活動や農業クラブ活動における顕著な成果を収めることができた。</p> <p>◆広報活動では、コロナ禍で様々な制限があるなか、地元中学校と連携した取組を推進することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>◆体系的に整理したスクール・ポリシーをもとに組織的かつ計画的な教育活動を推進すること。</p> <p>◆新たな学習指導要領の趣旨に対応した教育内容を一層、充実させるとともにICT教育を推進すること。</p> <p>◆家庭学習習慣の定着を図り、自分の将来に向け、高い志や目標を持ち、進路に対して積極的に挑戦する力をつける指導をする。</p> <p>◆オンライン学習システム「スタディサプリ」の効果的な活用と到達度テストによる学力分析を一層進めること。</p> <p>◆地域からの信頼関係を深め、地域と共に歩み、地域に貢献する教育機関としての役割を高めること。</p> <p>◆規範意識やモラルの高い、心身ともに健康な生徒の育成を進めること。</p> <p>◆ホッケー部員の全国募集により学校の活性化に繋がる取組を進めること。</p> <p>◆部活動の活性化に向け、加入率を高める方法を検討すること。</p> <p>◆京丹波町立中学生の志願者を増やす取組を一層推進すること。</p>	<p>【学校経営主題】</p> <p>「社会の変化に対応した魅力ある学校づくり」</p> <p>【重点項目】</p> <p>◆新学習指導要領の年次進行と観点別学習状況の評価を実施する。</p> <p>◆学習用端末(タブレット)を活用した授業を展開する。</p> <p>◆オンライン学習システム「スタディサプリ」をより一層効果的に活用する。</p> <p>◆令和5年度に向けて「総合的な探究の時間」の指導体制について準備を進める。</p> <p>◆京丹波町をはじめ地域の関係機関と連携した協働的な学びを展開する。</p> <p>◆農業の6次産業化の推進と企業や研究機関等との連携を強化する。</p> <p>◆大学等の高等教育機関と連携して各教科・科目の学習内容の充実・深化を図る。</p> <p>◆部活動と生徒会活動を活性化させ、生徒の自主性を育む取組を行う。</p> <p>◆ホッケー部員の全国募集と全国大会での入賞を目指す。</p> <p>◆茶道・古典・和太鼓などの伝統文化に係わる教育活動の継承発展</p> <p>◆積極的な情報発信と生徒募集活動</p>

分掌教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
教務部	新学習指導要領に向けた取組	・学習評価の充実に向けて、教職員研修の実施、情報の提供に努める。	B	1年生の学習用端末導入に向けて、教職員研修を実施することができた。1学年担当の先生方にはロイノートなどを活用していただけている。次年度もエンジェリストを中心に計画的に研修を進めていきたい。学習評価については研修等の情報提供は一定できた。次年度は校内での情報共有等の機会を設けていきたい。
		・学習用端末を活用した授業に取り組んでもらえるよう計画的に研修を行う。	A	
生徒指導部	自主活動の活性化	・部活動に関する情報発信を積極的に行い加入率の向上を図る。	B	全体的に部活動加入が低調なことに加えて途中退部が多く日々の活動に支障が出ている部もある。3年ぶりに須高祭文化の部が良い雰囲気を実施できた。多くの生徒が参加し地域清掃活動が実施できた。
		・生徒会役員を中心に楽しく有意義な行事を企画できるよう指導する。	A	
進路指導部	進路指導の充実	・進路学習等を通して、特に高校卒業後の進路の重要性を説き、本校のグランドデザインの「目指す生徒像」の育成に寄与する。	B	「目指す生徒像」になった生徒もいたが、全体への浸透は今後の課題である。進路部内や担任等と意見を出し合い、個々の生徒に合うと思われる提案をした。
		・進学・就職に関する進路情報をできるだけ多く提供し、生徒それぞれの希望や適性に合った進路希望の設定をサポートする。	A	
保健部	生徒の健康状態を把握した上で適切な対応をとる。(新型コロナウイルス感染拡大防止にも努める)	・学校等欠席者・感染症情報システムや欠席者把握シートを活用し、体調不良者や欠席者を正確に把握する。	A	昨年度に引き続きサーベイランスへの毎日の入力、欠席や登校生徒の状況を欠席者把握シートを活用して早期発見に努め対応することができた。関係分掌等との連携を意識して今後も取り組んでいきたい。
		・欠席者把握シートに基づき、関係教員との連携を円滑にする。	B	
人権教育部	人権学習の推進と人権意識を高める取組の推進	・各学年毎に人権学習を実施する。基本的な人権に対する正しい理解をさせ、学校生活の中で人権を意識した行動が出来るように指導する。	A	各学年の人権学習を実施することができた。人権学習を通して、お互いの人権尊重の思いを持つことができるように指導した。世界人権デーに合わせてポスターを作成し、展示することで人権啓発をすることができた。
		・生徒会人権委員会の活動を充実する。	B	

分掌 教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
農場部	農業クラブ活動の充実	・各種の発表会や競技会に向けた活動を推進し、大会での上位入賞を目指す。	A	A 専門部が積極的に活動し、農業クラブの大会だけでなく、大きなコンテストでの入賞するなど生徒が活躍する場面が多くあった。来年度の農業クラブ近畿連盟大会の成功に向けて、指導を充実させていきたい。
		・農業クラブ専門部の活動を充実させる。	A	
第1学年部	進路実現に向けた学力の向上	・教科担当・他分掌と連携をとり学力向上を図る。（テスト前の学習や補習など）	C	C 学力向上の取り組み、タブレットの使用については、クラス間でばらつきがあり、学年としての取り組みはできていなかった。
		・学習用端末（タブレット）及びスタディサブリを有効に使う。	B	
第2学年部	進路の意識を高め、学力の向上と充実を図る。	・授業、家庭学習、考査前学習に取り組み、学力の向上と学びの空間を大切にする。	A	B 考査1週間前より、各HR教室とも「学習の場」として、学習会や個人学習の空間と設定し、教科や支援担当と連携しながら指導を進めた。学科コースの特性に合わせ、進路の実現に向けた学習や資格取得への挑戦を通して、目標を持たせながら積極的な学校生活を送ることができた。
		・進路に向けて意識を高揚をはかり、実現に向けた学習への意欲を高める。	B	
第3学年部	学力を向上させ、希望進路を実現させる	・主体的に考え、行動し、希望進路を実現させる。	A	B 生徒一人ひとりが自らの進路と向き合い、個別的対応を充実させることができた。その結果、現時点で就職希望者（学校斡旋）94%内定、専門学校100%、四大・短大90%の進路実現を果たしている。一方で、学習全般に関しては、定期考査に向けた直前学習のみで、基礎基本の徹底には課題が残った。（大学進学者含めて）
		・自らの課題を認識し、家庭学習の習慣を確立する。	B	
事務部	学校経営という視点を持った予算の執行	・特色ある学校づくりを進めるため、各分掌・教科や各種事業担当等と積極的に連携を図り、財政的な面から学校運営の一翼を担う。	B	B 各分掌・教科と連携し、適切な予算執行に努めた。老朽化した施設設備の維持修繕と、学校の特色化・学力向上推進のための環境整備を、限られた予算の枠で両立していくことが継続的な課題である。
		・学力充実・向上のための予算の重点的な措置を行う。	B	
国語科	「ことばの力」を基軸とした基礎学力定着と学力伸長	・実社会に必要な国語の知識・技能の定着を図り、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	B	B 漢字テストや古語テストなどの小テストをはじめとし、音読や暗記の課題に取り組みさせることで、国語常識を定着させることができた。また、読書感想文コンクールで受賞する等の成果を上げることができた。「話すこと・聞くこと」に関する授業を展開することができたが、参加が難しい生徒へのさらなる手立てを模索する必要がある。進学希望の生徒を中心に、問題解決能力の伸長を図ることができた。
		・互いの主張や論拠を吟味し、考えを広めたり深めたりといった「話すこと・聞くこと」に関する授業を展開し、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。	B	
地歴公民科	進路実現に向けた学力向上を目指す。	・難関大学等、進路希望に応じた個別指導をきめ細かに行う。	A	A 進学講習や添削指導などを通して学力向上につなげることができた。今後は協働的な学習ができるように工夫をしていく必要がある。
		・暗記だけでなく思考・表現力を培うことができるよう、定期考査の工夫をする。	A	
数学科	授業『改善』	・3観点評価に沿った授業展開に取り組む。	C	C 3観点評価においては、評定と実際の能力が乖離してしまう結果となった。評価基準については引き続き検討する必要がある。ICTの有効活用は十分に出来たが、単元や学習者のレベルによっては紙で実施する方が良い。簡単な計算や暗記が出来ない生徒が多数見受けられたため、目標は達成できていない。
		・新たな指導法に関する情報収集、共有を行い、指導改善に生かす。	B	
理科	進路実現に向けた指導体制の充実を図る。	・希望する進路の実現に向けて、生徒の課題に即した指導を展開する。	B	B 少人数講座の特性を生かし、生徒の学力実態や進路希望の変化に対応した学習を機動的に取り入れることができた。
		・進路希望に応じた個別指導などにより、実現につながる学力の充実を図る。	B	
保健体育科	健康の増進と体力と精神力の向上	・適切な運動負荷により体力と精神力を向上させる。	A	A 長距離走やトレーニングの授業において、体力や精神力の向上を図ることができた。選択授業では、自らが計画した内容を仲間とともに協力して実施することができた。生徒の体力の状況に応じた授業展開を工夫しけがの防止に努めた。
		・選択授業を通して生涯を通じて自ら計画し運動に親しめるよう指導する。	A	
芸術科	自己肯定感を高め、粘り強く取り組む力や挑戦する力を培い、実技能力を向上させる。	・言葉等で自らの想いや考えを記録・整理させ、自己の成果や課題に気づかせることにより、向上心を一層高め、より高い表現力を身に付けさせる。	B	B 生徒の良いところや成長を、自ら言語化してまとめられただけでなく、授業中のやり取りやふりかえりシート等を活用して、教員側からも常に伝えることができた。そのため、自信を持って活動したり、不安なときは自ら質問したりして、前向きに課題に取り組むことができた。
		・指導者が生徒の良い所を積極的に言葉にして伝え、生徒の自己肯定感を高めさせる。	A	

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
英語科	課題解決型学力の定着と伸長	・「マナトレ」の活用をはじめ、多様な題材を用いて基礎学力の定着を図る。	A	昨年度に引き続き、マナトレの活用で、中学校内容の再確認と理解の促進を図ることができた。また、コース別授業の利点を最大限に生かし、個別最適な学習方法を目指し、グループ、ペア等の形態での取組を取り入れることができた。
		・授業形態を工夫し、相互に学び合う場面を通じて理解を深める授業展開を目指す。	A	
家庭科	生活を主体的に営む力の育成	・生活の中から題材を選び、授業と生活の関連性を感じられる授業を展開する。	B	生活の中から題材を選び、授業と生活をより関連付けるため、具体的に分かりやすい取り組みが必要である。
		・基礎的知識・技術の習得に向けた題材を設定する。	B	
農業科	専門的な知識と技術を身に付けさせる。	・より具体的で分かりやすい授業を展開する。	B	資格取得の取組は例年通りできた。合格率を高めること、さらに上級の資格・検定への挑戦を促す指導をする必要がある。
		・資格取得を一層推進する。	B	
情報科	情報技術の学習を通じて、情報社会を生き抜く能力を育成する。	・コミュニケーションの手段としての情報の特性を理解し、円滑に活用する能力を育成する。	A	文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの活用を通して情報機器の円滑な活用能力を育成することができた。個人情報の保護などの分野について授業で重点的に取り上げたが、IDやパスワードの安全な使い方について生徒に十分に浸透していなかった。
		・個人情報や知的財産権の保護など社会的責任を伴う問題についての理解と自覚を養う。	B	
総合的な探究の時間（1年）	「京丹波学」をととして、京丹波町や須知高校の魅力を再発見し、継承する力を培う。	・京丹波町の歴史・文化・自然・環境・産業・観光・スポーツ等について学び、理解を深めるとともに、地域社会の課題を考察する。	A	農牧資料館の見学により須知高校の歴史を通して地域の歴史や文化を学ぶことができた。さらに、京丹波町の役場の方や社会福祉協議会の方を外部講師として迎えた講義・講演を通して、京丹波町の現状を知り、課題に気づき、考察することができた。
		・須知高校と京丹波町の関係性について学び、今後、須知高校が地域社会に貢献する方策を考察する。	B	
総合的な探究の時間（2年）	課題の発見・問題解決の能力や自己表現力を身につける。	・生徒が自ら立てた課題の解決に向けて、主体的・協働的に学習を進める。	A	中高連携授業やマイプロジェクトの取組を通して、主体性、協働性、挑戦する力等を養うことができた。また、高大連携することで探究するベースを学ぶことができた。取組の成果をマイプロジェクトアワード京都府 Summit、京都フロンティア校成果発表会、京丹波町学びの成果発表会で発表することができた。
		・情報収集・整理・分析やグループワーク・プレゼンテーション作成等を通して、自身の考えを表現し、まとめていく機会を作る。	A	
総合的な探究の時間（3年）	自己の在り方や生き方を見つめさせ、将来に対する具体的な展望を持たせる。	・様々な社会問題に関心を持ち、その本質や構造を見つけ出す“課題発見力”を身に付け、問題解決に向けて何が出来るかを考える。	A	自己PRの練習、SDGsについての学習、社会人基礎力とは何かを考える取組を行った。諸資料を読み自己の経験を振り返りながら、これからの自己の在り方生き方考えることができた。
		・希望進路の実現に向けた取組を進めるとともに、働くことの意義や目的を学ぶ取組を通して、望ましい職業観・勤労観を育み、自己の在り方や生き方を探る。	A	

学校関係者評価委員会による評価	<p>◆日々、ご努力いただいていることに感謝する。直近は生徒数減少が大きな課題である。中学校へ出向いて色々で紹介していただくなど工夫していただいているが、生徒数減少に歯止めがかからない。もっと深い原因と分析が必要である。</p> <p>◆ホッケー部、食品科学科の取組など全国レベルの活躍は素晴らしい成果を収めている。部活動の活性化に繋がられるよう支援していきたい。志願者確保のため、京丹波町の行事等も活用し、特色ある教育活動の成果や小規模校ならではの魅力を一層、効果的な発信に努めることを確認した。</p> <p>◆少人数で教員2名体制もあり、ほぼマンツーマン。丁寧な授業で生徒もすくすく育っている様子であった。</p> <p>◆校種間交流を通して須高の魅力を子どもたちに伝えてほしい。地域と一体となった取組により活路を模索していただきたい。</p> <p>◆昨年度より新入生の数が増えている地元、中学校と連携したセミナーや出前補習などの取組の成果であり、今後も継続して欲しい。出身中学校の卒業生から中学生への発信も効果的ではないか。地元の高校への入学は、時間を有効活用することが利点になる。高校では放課後の部活動などの取組を強化して欲しい。</p> <p>◆部活動を支援するため募金活動を見直していく必要があるのではないかと。地元の関係機関と一体となった教育活動の推進の重要性が確認された。</p>
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<p>◆体系的に整理したスクール・ポリシーをもとに組織的かつ計画的な教育活動を推進すること。</p> <p>◆新たな学習指導要領の趣旨に対応した教育内容を充実させるとともにICT教育を一層推進すること。</p> <p>◆個々の生徒の実態に応じた、きめ細かな生徒指導、学習指導等を関係分掌と連携して行うこと。</p> <p>◆家庭学習習慣の定着を図り、自分の将来に向け、高い志や目標を持ち、進路に対して積極的に挑戦する力をつける指導をすること。</p> <p>◆地域からの信頼関係を深め、地域と共に歩み、地域に貢献する教育機関としての役割を高めること。</p> <p>◆規範意識やモラルの高い、心身ともに健康な生徒の育成を進めること。</p> <p>◆ホッケー部員の全国募集により学校の活性化に繋がる取組を進めること。</p> <p>◆部活動の活性化に向け、加入率を高める方法を検討すること。</p> <p>◆京丹波町立中学校からの志願者を増やす取組を一層推進すること。</p>
---------------	--